

たち お の ぼり

立小野堀遺跡

- 1 所在地 鹿屋市串良町細山田
- 2 起因事業 東九州自動車道建設
- 3 調査年度 平成22年度～
- 4 主な時代 古墳時代
- 5 遺跡の概要

立小野堀遺跡は、串良川流域の、標高125mの笠野原台地北東縁辺部に位置します。東九州道建設に伴い、平成22年度から発掘調査が実施され、平成24年度で3年目を迎えました。これまでに、約1,500年前の古墳時代に造られた「地下式横穴墓」が170基以上発見され、大規模な共同墓地であることが明らかになりました。これほどの数の地下式横穴墓を調査することは県内では初めてであり、鹿児島県の古墳時代を考える際の重要な遺跡です。

6 注目される成果

148号墓は玄室の天井が崩落していましたが、全身を赤色顔料で着色した人骨の周りから青銅製の鈴5個、鉄剣1振、20本以上の鉄鏃が発見されました。この人骨は20代の女性で、多くの貴重な遺物が副葬されていることから、この地域で強い権力を持つ一族の一員であり、若くして亡くなったのではと考えられます。なお、本遺跡の副葬品は剣や鏃等の武器がほとんどで、装身具は大変珍しいです。

9号墓に3体の遺骨が埋葬され、15本以上の鉄鏃、3振の鉄剣、長さ104cmの鉄刀が副葬されていました。また、大変貴重な初期須恵器の大甕の破片が、竪坑埋土の中や当時の地表部に散乱していました。竪坑埋土には2回の掘り返された跡があり、副葬品に年代差がみられることから、追葬が行われたと考えられます。副葬品の豪華さや周囲の墓から離れていることなどから、立小野堀遺跡の中でも最も権力を持つ一族の墓ではないかと思われま

す。なお、これだけ多くの墓がありますが、その重なりは1箇所しか見られず、地表部にはなんらかの標識をもっていたと考えられます。

なお、これだけ多くの墓がありますが、その重なりは1箇所しか見られず、地表部にはなんらかの標識をもっていたと考えられます。



148号墓の人骨（奥）と副葬品（手前）



148号墓内の鈴